

【資料3】

和歌の浦地域の現状と課題



令和7年9月8日
和歌山



和歌山市の概要①

- 和歌山市について -

和歌山市は人口約35万の中核市で、関西国際空港から最も近い県都です。

日本遺産の認定、交通アクセスの向上、観光客の増加など、近年和歌山市への注目は非常に高まっています。

- 人口 344,920人
- 世帯数 159,247世帯
- 面積 208.85km²

※令和6年10月1日現在

アクセス

関西国際空港

- JRで和歌山駅まで
- 南海電鉄で和歌山市駅まで
- リムジンバスで和歌山駅まで

30分~40分

和歌山市

新大阪

- JR 特急で和歌山駅まで

約1時間



アクセス

東京から

- JRで和歌山駅まで 約4時間
- 飛行機で和歌山駅まで 約2時間

白浜空港から

- 車で和歌山ICまで 約1時間

京都から

- JR 特急で和歌山駅まで 約1.5時間

和歌山市

和歌山市の概要③

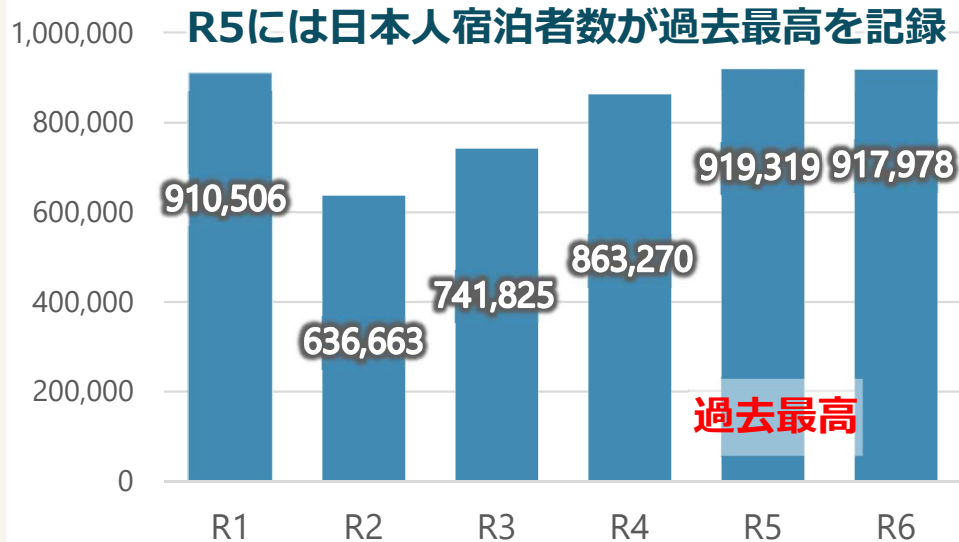
豊かな自然がつくるの山海の「食」の魅力



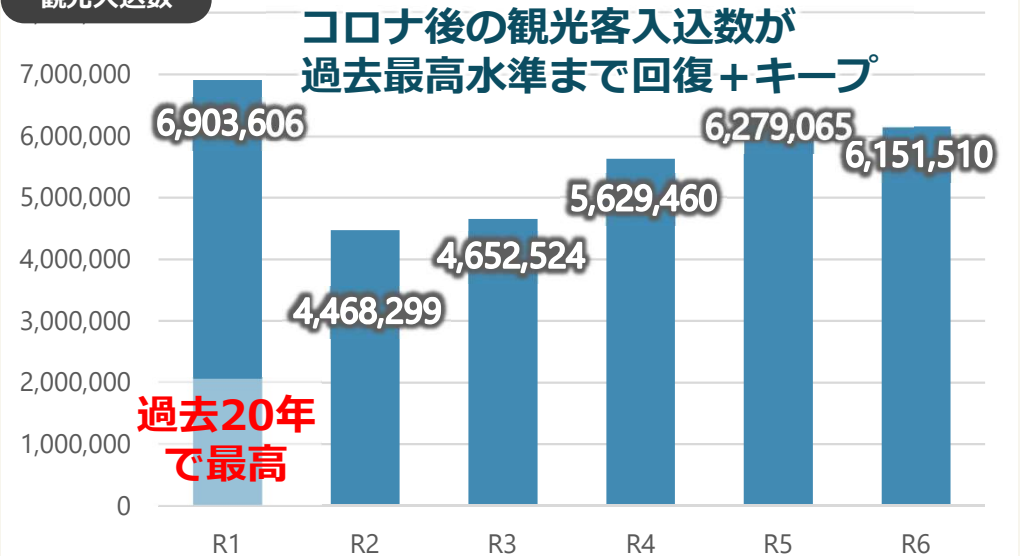
郷土ならではのグルメ

和歌山市の観光動向

日本人宿泊者数



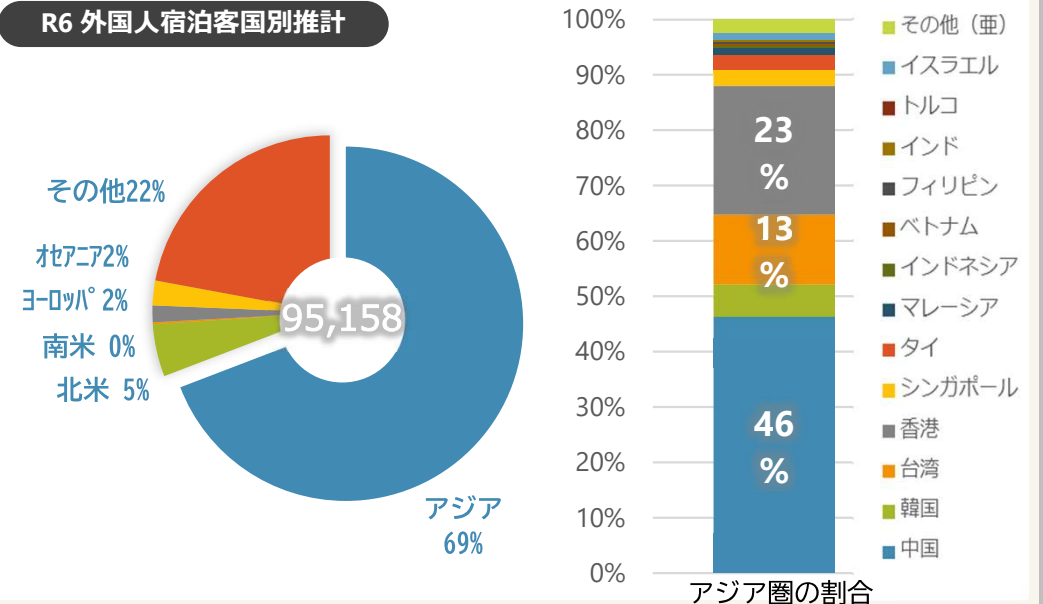
観光入込数



外国人宿泊者数



R6 外国人宿泊客国別推計



和歌山市の観光資源（和歌山城周辺）



和歌山城の景観整備（扇の芝の整備等）



夜間景観の整備・ナイトタイムエコノミーの推進
（西之丸庭園ライトアップ・和歌山城～光の回廊～）



周辺の観光資源（和歌山マリーナシティ）



ポルトヨーロッパ



和歌山最大級の光の祭典 FeStA LuCe



黒潮市場の鮭の解体ショー

周辺の歴史文化資源（和歌の浦周辺）

和歌浦天満宮



玉津島神社

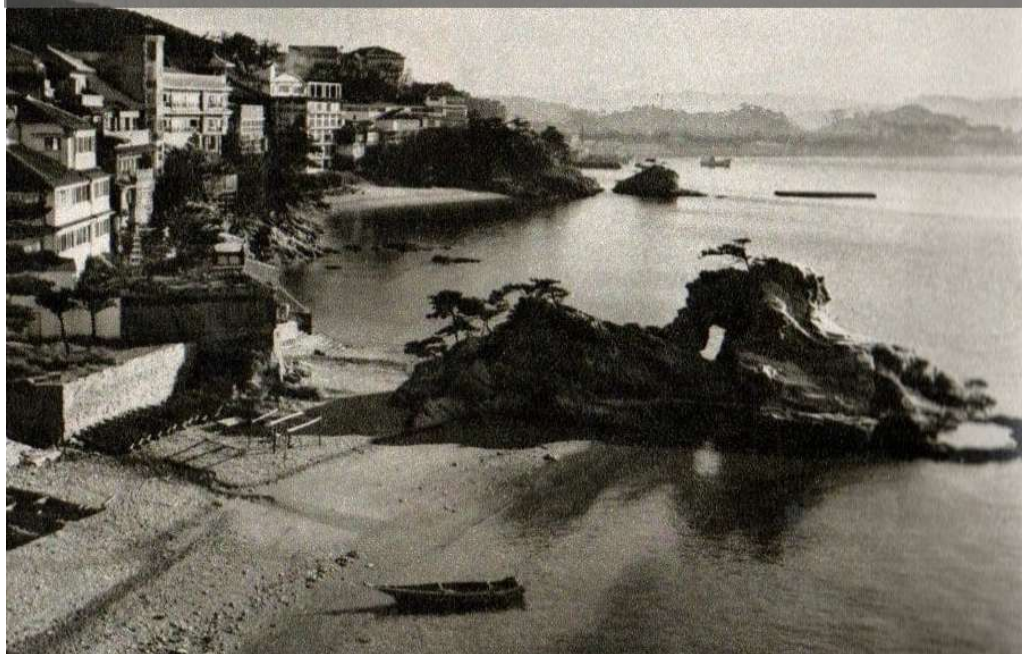
周辺の歴史文化資源（和歌の浦周辺）



第十代藩主徳川治宝公により造営された松を主体とした約33,000㎡におよぶ大名庭園

最盛期の状況 新日本観光地百選 海岸の部1位

新日本観光地百選（1950）海岸の部で一位となり年間宿泊客数が350万人に



新婚旅行の様子 昭和30年代



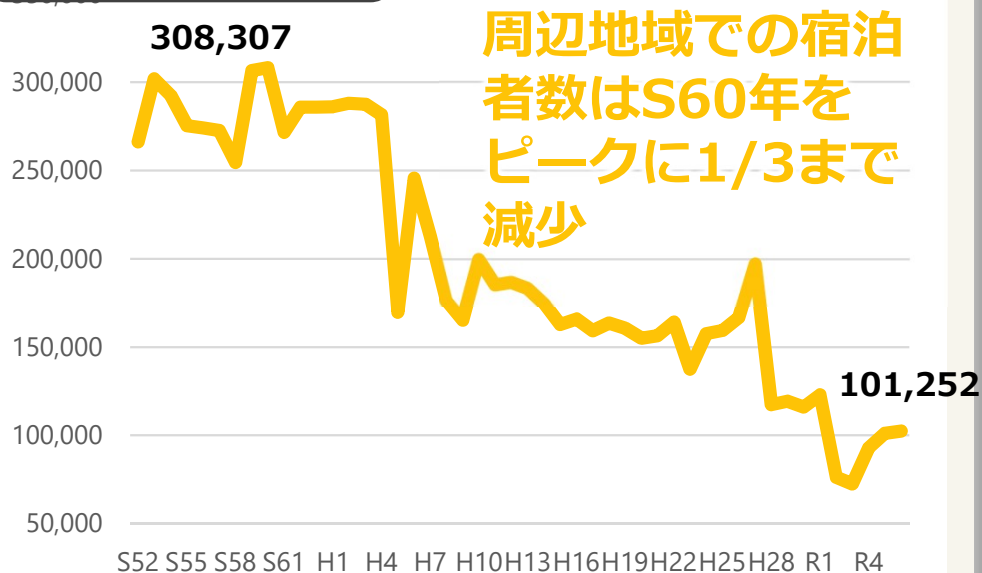
高津子山回転展望台の整備



ロープウェイの敷設

宿泊者数の落ち込みと放置された廃旅館等の課題

和歌浦地域の宿泊客数の推移



和歌山市が行政代執行で処分



市の企業立地促進奨励金制度を活用し、地元資本で再生された宿泊施設

さらなる活用が期待される重点エリア内の空間資源の例

さらに活用が考えられる空間資源の例



番所庭園



浪早ビーチ



田ノ浦漁港

利用が著しく低い空間資源の例



地域内の空き家の状況

湾の傾斜部に張り付くように家屋が密集した独特で魅力ある景観である一方、近年人口減少が進み、空き家率が高い状況

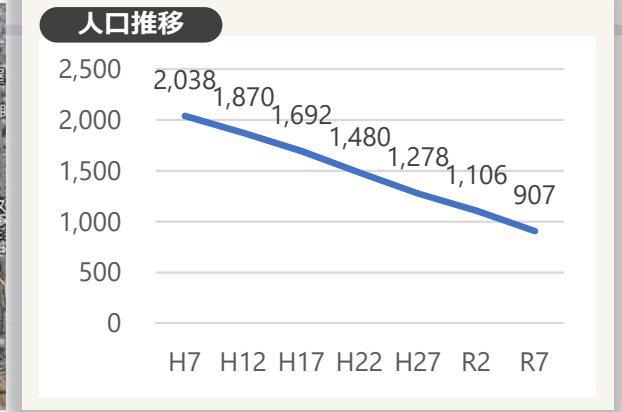
地区名	建物件数	空き家件数	空き家率
雑賀崎	1,131	108	9.5%
田野	468	56	12.0%



和歌山市全体の空き家率は 3.0% 和歌山市空家等対策計画（第2期 令和5年3月31日改定）より

写真は過去のかやま空き家バンクに掲載されたもの

雑賀崎地区の概要



- ◆人口：907人（世帯数503）高齢化率50.3%（令和2年国勢調査基準人口世帯数 令和7年度8月1日現在）
- ◆面積：約1.12平方キロメートル
- ◆アクセス：和歌山市中心部から車で約20分。和歌山バスで「雑賀崎」下車すぐ
- ◆交通条件：路線バスが2路線あるものの、便数が1時間に1本程度
急斜面の地形や狭小路地による接道が多く、主要道路以外の道路は狭い
- ◆環境：紀伊水道を望む景勝地。半島先端部に位置し、海岸侵食地形と急峻な斜面に集落が広がる
雑賀崎漁港周囲の丘陵部に家々が建ち並ぶ風景から「日本のアマルフィ」とも呼ばれる
- ◆産業：底引き網漁と一本釣りがさかんで真鯛や足赤エビがよく獲れる（船43隻） 漁業と観光が主な産業
- ◆主な地域資源：番所庭園（瀬戸内海国立公園）、上人窟、雑賀崎の町並み（日本遺産構成要素）
（文化財）雑賀崎台場跡、鷹の巣、※養翠園、※水軒堤防 ※印は隣接する雑賀地区に所在
雑賀崎灯台、雑賀崎から見る夕景、レモンの丘公園（沖見の里）
漁村集落特有の漁業文化、豊富な水産物、雑賀崎漁港の船上販売、雑賀崎シーパーク（釣り堀）
空き家を活用した民泊、飲食施設、NPOや住民による「夕日を見る会」等の地域活動
- ◆主な地域課題：高齢化、人口減少に伴う空き家の増加、漁業従事者の後継者不足
廃旅館等による景観の阻害
主要駅からの交通アクセス、生活交通の不足、急斜面と狭小路地による生活環境の制約



番所庭園



日本のアマルフィ
雑賀崎の町並み



上人窟



雑賀崎灯台と雑賀崎の夕景



雑賀崎漁港の船上販売

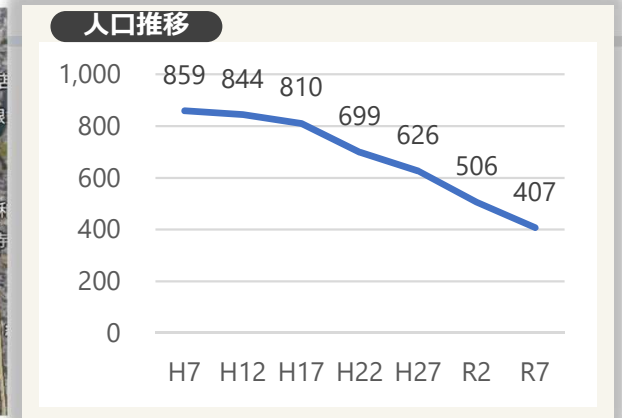


空き家を活用した民泊、飲食施設

景観を阻害する廃旅館



田野地区の概要



- ◆人口：407人（世帯数151）高齢化率63.4%（令和2年国勢調査基準人口世帯数 令和7年度8月1日現在）
- ◆面積：約0.34平方キロメートル
- ◆アクセス：和歌山市中心部から車で約20分。和歌山バスで「田の浦」下車すぐ
- ◆交通条件：路線バスの便数が1時間に1本程度
急斜面の地形や狭小路地による接道が多く、主要道路を含め道路幅員は狭小
- ◆環境：浪早崎に隣接する半島部にあり、斜面地に密集した漁村集落を形成（明治期に雑賀崎から独立 漁民のみの集落であったといわれる）
浪早ビーチや田ノ浦漁港を有し、海水浴等で利用されてきた。漁港を中心とした漁業文化が根付く
- ◆産業：漁業が主な産業であったが、現在は5隻程度しか稼働していない（底引き網漁）
- ◆主な地域資源：浪早ビーチ、浪早崎（瀬戸内海国立公園）、豊富な魚種から釣りスポットとして人気
漁村集落特有の漁業文化、空き家を活用した民泊施設
和歌浦地区、雑賀崎地区へとつながる観光遊歩道が整備されている
（漁港内に足赤えびの陸上養殖の研究施設）
- ◆主な地域課題：高齢化、人口減少に伴う空き家の増加、漁業従事者の後継者不足
廃旅館等による景観の阻害
主要駅からの交通アクセス、生活交通の不足、急斜面と狭小路地による生活環境の制約
域内での消費機会の創出、消費の促進が必要



浪早ビーチと浪早崎



観光遊歩道



田野の町並み



景観を阻害する廃旅館



営業休止中のホテル

10年後の目指す姿と想定するアクションのイメージ

和歌山市が目指す観光まちづくりを通じた地域再生

1年目
(2025年)

- ・ **エリアビジョン（向かうべき方向性）の策定**
- ・ **有識者会議等で出された意見を基に並行して実施手法を検討**

短～中期目標
(2～4年目)

- ・ 新たな観光コンテンツの造成（ソフト事業・小規模事業）
- ・ 公有空間の活用、周辺環境整備に向けた準備
- ・ 地域を盛り上げ、牽引する人材の発掘、育成 等

中期目標
(4～6年目)

- ・ 地域の核となる誘客施設の運営開始（官地・民地それぞれに可能性）
- ・ 公園、観光遊歩道等の周辺環境、交通の整備
- ・ 魅力的なコンテンツの増加、拡大 等

長期目標
(～2034年)

エリアビジョンに基づく観光まちづくり・地域再生

地域の核となる誘客施設に加え、魅力的なコンテンツの集積を目指す
※具体的なKPIは地域の意見等も踏まえ検討